

東総の霊場

匠瑳探訪

203

「お遍路さん」とよばれ白衣に輪袈裟、菅傘姿の巡礼者が春の風物詩として報じられる季節となりました。

昨年夏、堀川西区吉祥院調査の際に目にした「新四国八十八箇所霊場」の掛け軸から「東総の霊場」の新たな歴史を知ることができました。これには弘法大師像を中心には一番の野中村（現在は旭市）長禅寺から第八十八番の大台村（現在は芝山町）真福寺を結願寺とする各霊場が記されています。

当地域で「お大師まい

り」と呼ばれる巡礼は、1785年に一番霊場長禅寺住職が下総国の香取・海上・匝瑳の3郡と上総国山武郡を四国になぞらえ始められたとされます。

ここに書かれた八十八の霊場をつぶさに見ると、現在の匝瑳市域では40の寺社が霊場とされ、特に西小笹村では2社2カ寺が載り、八十四番の大浦・蓮華寺には「四国八十八ヶ所八十四番」と刻まれた門柱が東総地域の霊場巡りが始まったとされる1785年に立てられたことも興味深いことで

す。また、貝塚・宝光寺にも「新四国七十三番霊場」（1868年造立）の門柱があります。

吉祥院の掛け軸は1852（嘉永5）年11月に堀川村の江波戸與右衛門、大木久右衛門と年寄中が発起人となり、主に同村の人たちの寄付で完成しました。軸の下部には第一番から八十八番まで各霊場ごとに関係した同村と近隣村の人たちの苗字と名前が書かれ、吉祥院は3カ所、女性の講「女人中」が4カ所分を受け持っています。

この掛け軸からは1785年から始められた「東総3郡」を主な霊場とする「新四国八十八箇所霊場」巡りが数十年後には、堀川西の吉祥院でも一幅にまとめられるほどに信仰が広まっていたことが知られます。

東総地域のお大師参りは、明治中ごろから霊場が再編されたようです。（市文化財審議会委員・依知川雅一）

閩秘書課広報広聴班

依知川雅一

☎73・0080



吉祥院の掛け軸